

Relive Journal

りらいぶ ジャーナル

平成25年 陽春号

(4月12日発行)

ニューズレター版8号

<りらいぶ憲章>

- 組織、肩書き、経歴にとらわれない自由な生き方
- 知識、経験、技術を生かして社会に貢献する生き方
- 初心に帰って新しい自分を発見する生き方

私たちNPO法人リタイアメント情報センターはこのような生き方を
“りらいぶ”と呼び、その生き方をサポートします

<目次>

1. 私のりらいぶ (その8) (キャメロン会の紹介) (楽しい人生を求めて)
(会員 渡嶋 八洲夫)
2. 団塊世代、古き良き少年時代のエコ生活を振り返る (その5) (会員 角谷 三好)
3. 家庭菜園で野菜づくり “健康の維持と趣味の実現” (秋から冬にかけて)
(会員 山本 昌弘)
4. 座談会「西田芳次郎先生」学びについての講演 その1 (会員 植松 彬)
5. エッセイ・自分たち探し 「ほのぼのマイタウンより」
「食」から中国を眺めるとすごく無軌道、無神経な人々
(フリージャーナリスト 國米 家巳三)
6. <旅コラム> ベトナム・ホーチミン市の旧正月 (テト)
「プチパリ」の新春風景 (坂内 正)
7. 冬のチェンマイを訪ねて (会員 渡嶋 八洲夫)
8. りらいぶサロンのご案内 「日本語教師でトクする話」
(りらいぶ塾 塾長 鈴木 信之)
9. バリ通信 (4月号) (会員 平川 龍)
10. ニュージーランド・クライストチャーチレポート (3月号) (会員 島村 晴雄)
11. バリ・ロンボク・レポート (4月号) (会員 島村 晴雄)
12. 自費出版図書館のご案内
13. 事務局からのお知らせ

1. 私のりらいぶ（その8）（キャメロン会の紹介）

（楽しい人生を求めて）（会員 元キャメロン会会長 渡嶋 八洲夫 79歳）

ロングステイをされる場合、同好会に入会されることをお勧めします。色々な情報が得られ、現地でサークル活動に参加、多くの仲間と楽しいロングステイが送れるからです。全国規模で組織されている同好会には「キャメロン会（1998年カメロン会設立）」「NPO 南国暮らしの会（1998年設立）」「NPO ワールドステイクラブ（2005年設立）」その他多数結成されており各々独自の目的をもち活動を続けてられています。永年にわたって自らも会運営に携わってきた「キャメロン会」の活動について紹介申し上げます。その他の団体については各々のホームページに詳しく紹介されているので参照をお勧めします。

1. 設立の趣旨

「マレーシアの高原リゾートキャメロン・ハイランドでロングステイする意思を有する会員相互の親睦を図り併せて現地の人々との交流を促進することを目的とする。」

（キャメロン会会則より抜粋）

温和な気候のキャメロン・ハイランドで多くの仲間と過ごし、現地の人々との交流を深めると共に迷惑を掛けずに、楽しいロングステイをめざす人々が集まった同好会です。

2. 設立

1998年「カメロン会」設立

2001年「カメロン会」を「キャメロン会」に名称変更

2002年「キャメロン会」設立総会

3. 会員数

初代会長の久保田豊氏は1996年にはキャメロン・ハイランド（CH）に滞在、その後徐々に日本人滞存者も増えてきました。1999年「ロングステイ財団」「アサヒ・タウンズ紙」「マレーシアの新聞」でCHでのロングステイの素晴らしさが大きく取り上げられ、開催した説明会の参加者は延べ1500名と大きな反響を呼びました。会設立後は会員数が着実に増え2003年には1000名を超え、2007年最高1331名に達しました。現在は団塊世代の定年が延びた関係で700名程度ですが、再び増加に転じています。

4. 運営方針（キャメロン会 会則より抜粋）

会員から役員（会長、副会長、監査役、理事、支部長、委員、顧問）を選出、下記運営方針に従って、会運営に当たっております。

- （1）役員並びに会員に対して如何なる報酬及び手当は支給されず全てボランティア活動による。
- （2）全ての会運営の費用は会費で賄い、企業・団体からの寄付は受けない。会報への広告掲載も禁止する。
- （3）会員は全て自己責任で行動する。
- （4）会員は全員平等の立場にあり、前歴は問わないし言わない。

5. 活動状況

（1）いろいろな手段で情報の提供を行う。

- ①会報：年2回は発行され会員に届けられます。
- ②総会：夏CHで開催されます。

- ③情報交換会：冬と夏 CH で開催されます。
- ④支部会：国内並びに現地で随時開催されます。
- ⑤HP：新しい情報、伝達事項等を掲示します。
- ⑥掲示板：ヘリテイジ・ホテル内に掲示板を置き、必要な伝達事項が順次掲示されます。
 (例) 各部の催事の詳細が掲示され会員はこれを見て参加申し込みを行います。会員は常に掲示板を見る事が大切です。

(2) 各部サークル活動 {ハイシーズン(1月～3月 7月～9月)}

会員は自主的に好みのサークルに参加できますがその場合参加費が必要になることもあります。(受益者負担が原則)

(体育系)

- ① ゴルフ部：週1回合同練習会。シーズン1回のゴルフ大会並びに懇親会。

会員は随時友人等とゴルフを楽しみますが、週に1度合同練習会が開催され、上級者と一緒に廻りマナー、技術等を学べます。



(ゴルフ練習会)

- ② テニス部：週3回の練習会。

コートに集まりプレーを中心とした練習をします。テニス部員はCH テニスクラブの準会員として登録されます。

- ③ トレッキング部：シーズン6回程度のジャングルトレッキングを主催します。

各回毎にコースが決められ、会員はレベルに合わせて参加、複数の委員が引率します。コースは委員が予め安全面でチェックします。難易度は初級、中級、上級の3段階に分けられます。安全歩行を第1に考えております。



(ジャングル トレッキング会)

(文化系)

- ① 囲碁部：週2回定例囲碁会並びに囲碁大会。

レストランの会場に集まり色々な相手とさし切琢磨します。個人のレベルはまちまちで高位の有段者から初心者までの幅広い会員が集まります。シーズンに1回は囲碁大会が開催され多くの人々が参加します。

- ② 絵画部：週に1回スケッチ会開催、

色々な場所を選びスケッチを行います。シーズン最後には作品の展示会も開催されます。T シャツに花などを画く会も人気があります。



(Tシャツに絵を書く会)

- ③ 婦人部：現地婦人会と文化交流。

世界的規模の婦人会 WI (Woman's Institute) の CH 支部との交流会がシーズンごとに開催されます。キャメロン会からは日本文化(折り紙、お手玉、茶道、浴衣着付け等)の紹介、WI からはマレーダンスの紹介や、マレー衣装気付け、WI 地区大会の招待を受けたこともあります。言葉は通じませんが楽しい会です。



(婦人部交流会)

- ④ 手芸部：手縫い作品、ビーズアクセサリーの作成を楽しみます。

- ⑤ ゲームサロン：女性マージャン教室並びにカードゲーム。

女性マージャン教室は女性だけのサークルで指導員が付き健全な麻雀を目指します。

- ⑥ 歌声サロン：昔懐かしい歌を皆で歌い青春時代に帰ります。とても楽しい会です。
- ⑦ 写真部：色々な場所へ撮影に出かけます。シーズンごとに作品展示会を行います。



(女性マージャン教室)

(3) 現地との交流

- ① ソフトボール用具の寄贈。
 - ② CH ゴルフ倶楽部にバンカー用レーキ等備品の寄贈並びに交流ゴルフ大会。
 - ④ CH 婦人会に浴衣寄贈。
 - ⑤ テニス用具を高校並びに CH テニスクラブに寄贈。交流試合もしばしば行われてきました。
 - ⑥ 環境保護団体 (REACH) の団体会員に登録されておりシーズンごとに寄付を行います。ジャングルでの植樹会に参加してきました。
 - ⑦ 州の王様が CH を訪問される時、野外食事会に会員が招待をお受けします。
 - ⑧ 災害時義捐金を贈っております。
- 東日本大震災の時はキリスト教会主催の特別追悼ミサがありました。

(4) キャメロン会員特典

- ① 各種情報が得られます。
- ② ヘリテイジホテルの宿泊費が大幅に安くなります。
- ③ キャメロン会主催の催事に参加できます。
ゴルフ代が割引になります。又1ヶ月有効の割引制度(1ヶ月 15,000 円のパス)の適用が審査をパスすると受けられます。
- ④ 各シーズンには多くの会員が集い再会を喜び会い、楽しいロングステイらいふを過ごしています。マレーシア各地及び近隣諸国へ旅行する会員も多くいます。



(パンコール島に国内旅行)

(追記)

キャメロン会に入会ご希望の方は「キャメロン会」HP を参照の上事務局に連絡ください。「ヤフー」等からキャメロン会を検索されるとキャメロン会HP がアップされます。
渡嶋(トシマ) toshima8@silko.cn.ne.jp 宛に E メールで問い合わせいただいても結構です。

ロングステイに出かけて(1月～3月・7月～8月)不在の場合はご容赦ください。



(情報交換会)



(日馬ゴルフ会優勝商品)

2. 団塊世代、古き良き時代のエコ生活を振り返る（その5）

（会員 角谷 三好）

◇春とともに 春先から初夏のイワナ釣り

信州、長野県は日本でも海に接していない数少ない県の一つである。

少年時代、勿論主に日本海から入ってくる海の魚も食べてたが、身近で手っ取り早く獲れる川魚、特に自宅周辺の清流に生息していて、その斑点等の魚体の美しさから川魚の女王と呼ばれるイワナをよく獲って食べた。

秋口になって寒くなると夜しか出来ない漁があり、さらに冬には雪を使つての漁があるが、それについてはそれぞれのシーズンの項で説明することとし、ここでは春先から初夏のイワナ釣りについて触れることとしたい。

基本的にはイワナは1年を通して獲れるが、木々や植物の葉が生い茂る盛夏から、その葉が紅葉して落ちるまでの期間は獲らない。獲らないというよりは、この期間は小川に覆いかぶさった植物のつるや葉等が邪魔になって釣り糸をたらす事が出来ないためにやらないだけの事である。

イワナは前述したようにスマートな姿、形から、その美しさを称えられるが、実は姿、形とは裏腹に雑食性で攻撃的な獰猛な魚であり、川を泳いで渡る自分よりも大きなヘビなども飲み込んでしまうほどのパワーの持ち主である。

反面、警戒心が非常に強く川面に人影が写る等、異常を察知すると岩陰に身を潜めて姿を現さない。

3月も終わり4月も初旬を迎えると、関西や関東の地域では桜の花の開花が伝えられるが、奥信濃と呼ばれるこの地方では春の訪れは遅く、葉を落とした広葉樹林の中へ入ると、まだ、森の中は深閑と静まり返り、吹く風にも冬の余韻が残されている。しかし、その森の中を流れる小川に下りてみると春の歩みは少しずつ進んでいるようで、黄色の山吹の花が咲きだして、そこに小さい滝が流れ落ちて白い泡を立てながら清流の清らかな音を奏でている。



春が始まろうとしている時期ではあるが、まだ、小鳥のさえずりも聞こえず、風がしっかり新芽を包み込んだ木々の梢を揺する、かすかな音はあるものの、森の中は皆眠っているようで静寂の世界が支配している。

それだけに、小川から聞こえてくる滝の音は、万物総てが躍動する盛夏と比較すると大きく聞こえて、自分たちの存在を誇示しているようにさえ聞こえる。

この自然の中に生息するイワナも餌の少ない冬の時期、体力が消耗しないように激しい動きを封印して、村人たちと同じように水ぬるむ春をじっと待っている。

夏場になれば、草が生い茂って釣り糸を垂れるのが容易でない小さな、どぶら（この地方では川の水が流れ落ちて水溜りができている場所をこう呼んでいた）も今は昨秋に紅葉し葉が落ちたままになっているので、小さい木々の間から川面に短い竿で糸を垂れるのが容易である。

私たち少年の頃は、竿と言ってもお金がなかったので、代用として竹林に行って適当な竹を切って、それを竿に仕立てたり、近くの森に入って真っ直ぐな木を切って竿にしたりと粗末なものを使っていた。

（さて、実際のイワナ釣りについては次回の号でお伝えしたい）



3. 家庭菜園で野菜づくり “健康の維持と趣味の実現”

(秋から冬にかけて)

(会員 山本 昌弘)

定年後、健康維持と趣味を目的に、家庭菜園を始めた。現役の頃から家庭菜園をやっていたかと思っていたが、時間がなく実現しなかったが、定年してやっと念願がかなったものである。

まず、菜園を探すことから始めた。従来から、都市部の市民のレクリエーション、高齢者の生きがいづくりを目的に、農家や地方自治体・農業協同組合が遊休農地を土地所有者から借り受け、市民農園として提供している。しかし、最近は定年組が多いせいか、希望者が多く、抽選で選ばれるために、なかなか当たらないのが現状である。また、役所の提供する市民菜園では、貸し出し期間が2年程度であるので、たとえ抽選に当たっても2年毎に使用出来る菜園が変わることになり、折角、2年間かけて畑を豊かにしても変わるので、力を入れるのに気が遠のく。

その反面、地域の農家や土地所有者が、私的に家庭菜園を運営している私的家庭菜園がある。賃料は市民農園よりは若干高値だが、私的家庭菜園は、水道が完備するなど設備も良いし、畑の土壌が良いなど状況も優れており、また、何よりも、原則として、希望する期間継続して借りられるのが良い。

その他に、素人の人におすすめの家庭菜園に、「サポート付き農業体験」などが、地方であるが、茨城県や山梨県などで、開設されている。ここでは、野菜の栽培などを丁寧に指導してくれるのが特徴である。ただ、首都圏にないため、畑へ通うのに時間がかかり不便なのが欠点であろう。

以上のことから、私は、住まいが横浜市青葉区ということで、鶴見川の上流に位置する恩田川沿いの私的家庭菜園を借りることにして、今年で2年目を迎える。菜園であるから、横浜市近辺では、1区画の広さはそれほど広くなく、小生の菜園は、6m×7mで約10坪強である。ただこの広さは、素人や初心者には、狭くもなく広くもなく、丁度良い広さだ。あまり広いと畑を十分に使いこなすのが大変である。

家庭菜園の最初の作業は、土作りである。栽培したい野菜の酸度に合わせて調整が必要で、消石灰や苦土石灰などをまいて、中和する。同時に堆肥を入れておくと、中和した状態を長く保つことができる。石灰が馴染むのに時間がかかるので、遅くとも種まきの1週間前にはこの作業をしておく。最近はこの期間を短縮することができる有機石灰などが出まわっており、これを使うと、石灰をまいてすぐ種まきや苗植えをすることができる。次に種まきや苗の植え付け時期になったら、栽培する野菜に適する量の肥料を施し畝づくりをする。畝は栽培する野菜によって、違うので、野菜に合わせた畝作りをすることが重要である。

野菜は、大きく分けて、秋から冬にかけて収穫できる野菜、春から夏にかけて収穫できる野菜、ほぼ1年中収穫できる野菜に分けられる。

原稿を書いている3月では、秋に植えた野菜が収穫で



(家庭菜園の風景)



(小生の菜園の区画)



(葉物野菜の生育)

きる時期である。家庭菜園を行う楽しみは何といっても、フレッシュで無農薬の野菜を収穫できることである。小生の畑では、ブロッコリー、カリフラワー、ダイコン、白菜、キャベツ、ネギ、葉物野菜であるほうれん草、小松菜、チンゲンサイ、京菜（関西では水菜）、少し珍しいのらぼうなどを栽培している。畑としては狭いけれど、この広さでも、6畝ぐらいいは作ることができ、自宅で食べる程度の少量であれば、結構な種類の野菜を栽培できる。今の時期、ブロッコリー、ネギ、のらぼうなどは沢山収穫でき、2人家族の自宅だけでは処分できず、友人や近所の方へおすそ分けして処分している。ほうれん草などは無農薬で非常に柔らかいので、自宅に遊びに来る3歳になる孫も喜んで食べてくれる。これも、野菜作りの楽しみの一つである。

また、今の時期は、玉ねぎやえんどうの追肥をおこない、育成する時期である。化成肥料と鶏糞などを混ぜて施す。球根類である玉ねぎやニンニクは、過リン酸石灰を施して置くと、球根が固く成長してシッカリした実ができるようである。

市民菜園では畑はそれほど広くないので、畑を計画的に使用することがもとめられる。同じ科の野菜を連続して栽培すると、病気にかかったり育成が悪いなど連作障害がおこるので注意が必要である。このため、栽培計画を立て、植え付けをすることが重要である。野菜によっては3～4年影響がでるものがあるので要注意である。

野菜作りは健康維持に良い。畑での農作業は、晴れた畑で太陽を一杯に浴びて作業するのは健康的である。畑を耕す、肥料を施す、草を引く、水をやる、収穫をする、などの作業は体を使うので足・腰の筋力アップに通じる。小生の市民菜園では、多くの70歳以上の人たちが畑作業を元気でやっている。中には、80歳近い人も元気で頑張っている。空気もいいし、また、マイペースで作業をできるので、精神的にも健康的である。時々、作業の合間で野菜作り談義をして歓談し、コミュニケーションをしている。小生も畑を始めてから、健康的になったように思っており、これかからも続けて行こうと決意している。



（ たまねぎの生育状況 ）

いよいよ、夏野菜を栽培する準備を始める時期に来ており、土作りをはじめめる必要がある。夏野菜は、5月の連休前後に植え付けが集中する。このための畑準備が楽しい時期である。

次回は春から夏へ版を御紹介致します。

（記 2013.3.20）

4. 座談会「西田芳次郎先生」学びについての講演 その1

2013年2月21日 於：豊中「カフェ・サパナ」

(会員 植松 彬)

今回は山田治雄さんの親友で元同志社大学教授、西田芳次郎先生の講演が実現しました。奇しくも「リタイアメント情報センター関西支部長」の阿賀敏雄さんとは幼い頃、家も近くでよく遊んだ三歳年上のお兄さんということもあって、大変良い雰囲気です。座が盛り上がり、「学び」というテーマで15人が先生の話に耳を傾けました。本題の話の合間にはユーモアたっぷりの話もあり、あっという間のひと時でした。しかし「学び」が理解できたかといえば宗教・哲学の分野の話が多く、難しかったと言うのが本音であります。

その日の夜、私はこの話はとてもまとめることはできないと思いましたが、話の内容が大変重たく人生の重要な部分について語られていることに想いを寄せ、改めて書き留めたいとの気持ちに駆られました。翌日から日参している中山の奥之院への登拝の折に、録音したSDカードをヘッドホンで聞くことにしました。一度の登拝で2回聞き、家でも2回は聞くということに…二週間もするとあれ程難しかった先生の話がなんとなく理解??できるようになったのです…そしてテープ(SD)起こしをするうちに話の中身に益々興味が湧いてきたのです。不思議なことです…今後は関係書物を読む機会があれば更に深まるのでは??と考えています。以下は講演の概略です。

● イン트로…

天声人語から(朝日新聞2013.2.20朝刊)…受験シーズンが大詰めになってきた。今年の国公立大の志望者には「安全・地元志向」がより強まっているそうだ。1次試験にあたるセンター試験が難しかったらしく点数の伸びなかった受験生がやや弱気になっている…なかでも国語は200点満点で平均101.04点と過去最低に沈んだ。その犯人と目されるのが批評家小林秀雄の難解な随想である。没後30年の年にひとしきり新聞各紙で話題になった…



(お話される西田先生)

鐔(つば)という題からして凄みがある。刀の鐔をめぐる一文に語句説明の「注」が21もつく。これを一問目に「配点50点」でドンと置かれて焦る気持ちはよくわかる。小林は人を酔わせる文句の名人とされる。いたる所で繰り出されるが、たとえば手元の一冊にもこうある。「万人にとって時は経つのかも知れないが私達めいめいは臺口でも落とすような具合に時を紛失する。紛失する上手下手が即ち時そのものだ」一方で絢爛華麗な殺し文句をちりばめるためには論理性に頓着しないところがある。名高い「批評の神様」も受験生には貧乏神だったかも知れない。蛇足めくが右の引用文はこう続く。「そして、どうやら上手に失った過去とは、上手に得る未来の事らしい」…小林秀雄は私も日本人で唯一尊敬しています…小林秀雄という人は評価が分かれるところですが…

I 開題(問題意識) 「生涯学習」

● 戦略的学び

本当は学びには戦略があるので…。

● 自己紹介 昭和13年生まれ。生まれた時は大変お金持ちに生まれた…戦後極貧に…17

歳の頃一世一代の恋愛…失恋…「生涯学習」の決意。生涯苦学。

大学の助手になった頃ある娘さんをもらってくれという話があり、家を一軒付ける。さらに69軒の貸家も同時に付ける。そこから上がってくるお金で一生勉強してくれということであったが私は会いもせず断った。それぐらい純粹であった…金持ちは敵だからそんな話には乗らなかった。当時の私はマルクス主義者だった…まもなく足を洗ったが…マルクスは今でも尊敬している…彼は科学的社会主義者だと言ったが、空想的社会主義者だと思います…。

● 孔子の生涯学習。

「吾十有五にして学に志し」から始まって、七十にして学が成った、といった。孔子は好学イコール好色 学を好むことを女を好むごとくとせよ。

好色の方は本能だからほっておいてもよいが、好学は本能ではないから相当意識してやらないといけない…そうやって一生勉強なされた方であります。同時に学んで思はざればすなわち瞑しとも言っている。受身で学んでいるだけでは何にもならないので、そんな知識はいくら積み重ねても駄目だから自分で考えなさい…。

● 釈迦の生涯学習

御釈迦さんがどう言ったかということ…一度悟ったあとのことはどこにも触れられていませんが、私は向上仏という概念がなくてはならないと思っています。仏もどんどん向上している。そういう概念が欲しいと思っています。誕生の時に天上天下唯我独尊と言ったことはよく知られておりますが、死ぬ時には(遺言時)自灯明と言いましたね。自分を明かりにしろ…自分とは釈迦のことではなく弟子自身のことだ。そういうことを遺言として言いましたね。

● ソクラテスの生涯学習

もう一人の聖人ソクラテスは哲学は愛知であるとともに死の学びと言った。ヨーロッパの全哲学史はソクラテス哲学の脚注だと言われている。

● 現在学びの最高峰の一例

井筒俊彦先生(1914~1993)…勉強ってどういうことかという…頭が良いとか勉強するということはどういう感じがするのか一例を…司馬遼太郎さんとの対談から…20の言語を操れたのですが一番単純すぎて面白くないのは英語・ドイツ語・フランス語である…。20の言語の準備をした後、哲学・宗教に入られた。イスラム学の世界の権威であります。ユダヤ教、仏教について大変造詣が深い。私はこの先生の空海論文を読んでやっと空海がわかったのです。



こういう話で皆さんを絶望させたいと思っているのではないのです…

…井筒先生の天才が大事なのではなくて自分の凡才を大事にするというスタンス…但し多少は謙虚になってもらわないといけないので、絶えず偉い人を目標にすることが大切なのではと思います。

日本の文化は非常にレベルが高いので有難いと思います。日本語を読めたら世界のものが読めますから…

(真剣に講義を聴衆する参加者)

● 我々凡夫も釈迦の「自灯明」を灯明としよう

釈迦がどんなに悟ってもそれを自分の悟りにはできない。釈迦は個人の尊厳をいっている。

● 現在日本は学べる環境にある 哲学といえば西田幾多郎、宗教学では鈴木大拙、中国学では吉川幸次郎、インド学は中村元、民俗学の柳田邦男、折口信夫、民族学の梅棹忠夫、文学の小林秀雄…これらの人を通じて真善美の断片をかじるということではいけない。

● 本日の話の結論

凡人のレベルでどういう勉強をしていけばよいかの話をしたい…

自灯明を灯明にしようということで、江戸の中期に白隠禅師という方がおられて「大悟十番小悟数知れず」とおっしゃって、私はこれだと思うのです。これをモットーにしようという結論に至りました。そういうところに話を持っていこうと思っています。



(西田先生を囲んで懇親会)

＜次号に続く＞

＜植松 彬様の短歌＞

＜2月の短歌＞

- 舞う雪に登拝の我は夢心地 ^え 絵画の中歩く足取り軽く
- みぞれ降る寒さ厳しき奥之院 鳥鳴く声に心洗わる
- 霜柱踏む音軽やか登拝みち ^ね 澄みし風受け今を喜ぶ
- 吹きつける粉雪愛し奥之院 さまよいて嬉し白銀の森
- 暖かき朝日背に受け登拝する ^{きさらぎ} 如 月の今こころ弾みて

＜3月の短歌＞

- 人の道凡夫の自覚促され 更に迷いて春は遠のく
- 難解な学者のテープ聞きながら 弥生の登拝明かり見え来て
- 凡人と悟りて目ざす上の人 ^{とき} ^{みち} 時間なき人生に想い馳せたり
- 教わりし生きることとは如何せん 問を発することを忘れじ
- 梅の香に心惹かれて一休み そっと語らう真紅のきみに
- 春越えて夏思わせるこの陽気 桜の花も驚き芽吹く

＜関西支部便り＞

(関西支部長 阿賀 敏雄)

今春、初夏の予定をお知らせします。皆様のご参加をお待ちしております。

- 4月19日(金)
第八回りらいふ落語会 場所 ホテルアイボリー 午後2時開演
- 4月21日(日)
桂三若さん独演会 場所 須磨浦公園 旗振茶屋 午前11時開演
- 5月16日(木)
座談会 長岡壽男さんを囲んで「文学」談義 場所 カフェ・サパナ 午後2時から
- 6月10日(月)
講演会 「東日本大震災について」 場所 ホテルアイボリー 午後2時から
- 6月13日(木)～14日(金)
黒四ダム見学ツアー 詳細別途ご案内
- 6月20日(木)
座談会 小林 万理絵さんを囲んで風呂敷談義 場所 カフェ・サパナ 午後2時から

第八回
らいふ落語会
平成二十五年四月十九日(金)
会場 ホテルアイボリー
開演 午後二時

出演者
桂 三河
林家 染吉
桂 三若
(中へり)
桂 三若

5. エッセイ・自分たち探し 「ほのぼのマイタウンより」

「食」から中国を眺めるとすごく無軌道、無神経な人々

(フリージャーナリスト 國米 家巳三)

この場合、「食文化」より「食性」という言葉のほうがピッタリくるような気がします。それぞれの国の国民性、民族性と食を考えるときのことです。

早い話、韓国の国民食といえば、ニンニクとトウガラシがベースのキムチ。そこで韓国人はニンニクのお陰できわめてエネルギーギッシュであり、またトウガラシの影響で暴発好きです。やれ慰安婦だ、竹島だ、と狂乱騒ぎを“噴火”させます。

では、中国人はどうか。やはり、その食性と彼らの言動は深いところでつながっています。昔から、中国は「悪食(あくじき) 大国」などといわれ、バツタからコオロギ、セミ、タガメ、タツノオトシゴ、サソリ、ミミズ、さらにはSARS(重症急性呼吸器症候群)の病原ではないかといわれたハクビシンまで、なんでもこいの世界。サソリやミミズは繁殖し、ミミズは藁の下で幼虫を太らせ、食べるときは熱湯をかけタレをつける。ラクダのコブ、シカのアキレス腱、豚の耳などはとくに珍味として高価で売買されます。

豚は目も鼻もはっきり愛嬌のある笑顔がそっくり食卓に運ばれ、箸とナイフで少しずつ崩して口にいれる。スポンなど甲羅を背負って、そのまま出てくる。甲羅を剥いで首をねじり、手足をバラバラにして、一口ほうり込むと失神するほど美味ということになっている。この程度の姿料理なら、まだ許されるでしょうが、アヒルの脚の水かき料理となると、もういただけない。動物愛護団体がよく黙視していると思います。3週間ほど餌を減らし運動させずにいると、アヒルの脚が白くなってくる。そのあたりでアヒルの群れを熱く焼いた鉄板の上に生きたまま追い込む。当然、アヒルは大恐慌をおこしますが、適当に焼けた脚をばっさりカット。これをグルメ自慢の連中に提供する。

「中華人民驚話国(新宿書房)」という本によると、湖南省長沙に「母乳レストラン」が出現。農村出身の女性6人が、乳牛に使う搾乳器で乳を出し、これをベースに「スズキのスープ」「アワビ料理」など60種あまりのメニューで客を呼んだと北京のメディアが報じていました。なんでも母乳を出す女性一人ひとりの顔写真とプロフィールを店内に張り出し、客はお好みの女性の乳を指名できるシステムだそうです。

同じく、ある中国誌が広東省の病院が出産時の胎盤を産婦の了解なしに販売。このスープが美容に卓効ありとかで、女性ばかりか男性にも人気を博した、と伝えています。

「空を飛ぶものなら飛行機以外、何でも食っちゃう。海の中なら潜水艦以外、食えないものはない」「4本足で食べれないものは机と椅子だけ」ともいいます。それどころではない。戦争や災害時に深刻な飢饉に襲われると「親以外は料理の対象になる」とリアルに語られます。台湾生まれの評論家、黄文雄氏は「中国饕餮食人史年表」を公表しています。まさに食性における無政府状態。規範も節度もいっさいなしです。

数年前、中国科学院の古脊椎動物・古人類研究所が三峡ダム近くの遺跡から化石化した大量のパンダの骨を発掘しました。ヤマアラシやサイの骨もいっしょに出土したよし。なんでも構わず口にする民族文化は、決して昨日きょう始まったものではなく、古代から連綿とつづいてきたもの、といえるようです。

「人間は、その食べるところのものである」と19世紀のドイツの哲学者フォイエルバッハは喝破しました。奔放で無軌道な食性の中国は、政府も民衆も、やはり奔放で無軌道。日本や欧米の製品の模倣品を次から次ぎにつくり、東南アジアへ輸出までしている。反日デモで日本の公館や日系スーパーを破壊する。そのあと、いっさい謝罪なし。そればかりか、中国外相は「これまで中国政府は一度も日本国民に申し訳ないことをしたことがない」などと言っていてはばからない。食性が示すとおり、まさにすごい精神の人々です。

こくまい・かきそう 元産経新聞記者・東久留米市在住

6. <旅コラム> ベトナム・ホーチミン市の旧正月（テト）

「プチパリ」の新春風景

（坂内 正）

<戦争終結から38年>

ベトナムというとすぐに「戦争」という言葉が出てくる世代の人にとっては、テトと言うと「テト攻勢」が連想されるかもしれません。しかし、ベトナム戦争終結から2013年は38年。もう戦争を知らない世代が多数を占める時代になり、ベトナムの人々は、今年も伝統の旧正月・テト（TET）を盛大に祝っていました。

長く中国支配の影響下にありながら、その圧力に屈しなかったベトナムですが、こと旧正月の習慣や行事に関しては、モロにその風習を受け継いでいます。今年、2013年の旧暦の元旦は2月10日。この前後の新年を迎え、祝う様子をホーチミン市で取材してみましたので、写真を中心に紹介します。

民族移動もバイクと車でこの時期、中国では春節と呼び、さながら民族大移動のような帰省ラッシュが起きることは広く知られています。ベトナムも同様で、テトをはさんで、都会に働きに来ている人たちの多くが田舎に帰省します。ホーチミン市の場合、メコンデルタなど比較的近くから来ている人たちはバイクで、遠い人たちはバスなどで帰省します。最近はこちらベトナムにも格安航空会社（LCC）が乗り入れており、国内線もひんばんに飛んでいます。月収が15000円～2万円という大多数の庶民にとっては手が届きません。鉄道網もあるのですが、日本のそれとはまだ比べものになりません。かくして、バイクやバスでの民族移動が起きるというわけです。



旧南ベトナム大統領官邸（現・統一会堂）も新春の飾り付け



目にも鮮やかなイルミネーション

<花とイルミネーションの飾り付け>

新年を祝う飾り付けの準備は1月中旬からすでに進んでいました。ベトナムは今が乾季でカラッとしていて、半袖でしかもエアコンなしでもOKと言うベストシーズン。雨の心配もないことから、大規模な飾り付けや花でいっぱいにした道路に水を散くといった光景が目につきます。かつて、ベトナム戦争の趨勢を変えたといわれる、68年1月のテト攻勢の標的だった旧アメリカ大使館（現・領事館）のあるレ・ズアン通りも、花とイルミネーションで飾られています。このレ・ズアン通りの突き当たりが、旧南ベトナム大統領官邸（現・統一会堂）で、この前庭にも仮設の舞台施設がつくられていました。かつての現代史の舞台も、テトの時期は一変します。

ちなみにレ・ズアンというのはホーチミン主席亡きあと南北ベトナム統一を指導した当時のベトナム労働党（現・共産党）第一書記の名前です。レ・ズアン通りだけではなく、市内の主だった通りという通りは様々な色彩や形を工夫した電球が織りなす模様で飾られています。それはもうちょっとした光の芸術とさえいえそうな見事な輝きです。この時ばかりは日頃の電力不足も何のその、今はLED電球が主力だから大丈夫と言わんばかりです。大晦日もバイクの洪水最大の盛り上がりは、大晦日に当たる2月9日の夜です。多数の人が帰省したはずなのに、どこから出てきたのだろうかと思うほどの人出、いやバイクの2人乗り出です。特にあてもなさそうなのにバイク



バイクの洪水をぬいながら風船売りも

や車が競うようにクラクションを鳴らしながら、街中にあふれてきます。

深夜12時少し前から除夜の鐘のような音が聞こえてきます。日本と違うのは、お寺のゴーンという音色でなく、教会のチャペルのような音に聞こえることです。そして、12時、つまり旧暦の新年と同時にサイゴン河のほとりで花火が打ち上げられます。これもまたにぎやかです。

<元旦>

翌日、2月10日、元旦の朝は人通りも少なく大晦日の喧噪が嘘のように静かです。時折、遠くで、今や日本では田舎にでも行かないと聞けないような鶏の朝を告げる鳴き声が聞こえて来ます。これ以外はまるで遊び疲れた子供が寝入ったような静けさです。

この時期、お店や観光施設の多くも閉めるため、外国からの観光客にとっては観光ポイントを探すのに一苦労するのですが、その苦労の一端は最も身近なところでカバーしてくれます。

それは主だったホテルの前で獅子舞や龍の踊りをアトラクションとしてやるのです。これには宿泊客だけでなく、かつて知ったホーチミン市民も見に来るため、その時刻になると人垣ができるのです。

新春元旦の朝、ベトナムの初詣の様子を見ようと、宿泊しているホテル近くのヒンズー教の寺院に行ってみました。ここの人出は予想に反して普段とあまり変わりません。仏教徒が多数を占めるこの国で、ヒンズー教徒は少ないからなのかと思いましたが違ったようです。多くの人々が帰省しているのがその理由のようです。それにもともとこの国の人々は、参拝するのにそれほど宗派へのこだわりはないのだそうです。どうりで、ほとんどの人が中国や台湾のお寺で見かける細長い線香を何本もかざして御参りしているわけです。

さて、元旦の夕方。どこからともなく、また、大晦日同様バイクの群れが序々に道路を埋め尽くしてきます。以前、サッカーの国際試合にベトナムが出場した時、乗っていたバスがバイクの群れで動けなくなり、しばらく立ち往生したことがありましたが、あの時を思い出させます。



ホテル前の太鼓のアトラクション

<清掃に休みなし>

翌朝、少し早起きして街を散歩してみました。

深夜のにぎやかさが嘘のように、人通りもバイクもほとんどいない道路を黄色の作業服の人たちが黙々と清掃しています。公園でも同じ光景を目にしました。アジアの喧噪とゴミの散乱した街になれている者にとっては、文字通り新鮮な驚きです。



プチパリをきれいにする道路清掃員

旧宗主国のフランスにあやかってホーチミン市(旧サイゴン)は「プチパリ」とも呼ばれます。しかし、名前のイメージと違って、ゴミの散乱する本家・花の都を知る者にとっては「プチパリ」という言葉の響きの方が心地良く聞こえてきます。

この道路や公園の清掃作業は、元旦にあたる10日だけでなく、翌日も翌々日もつまり毎日続けられています。

静かな新春の街を掃き清めているのです。

もう1週間もすると、また朝から夜までエネルギッシュなホーチミン市が戻ってきます。



ホーチミン市へ向う機内も旧正月の飾り付け



ホテルのフロント嬢もアオザイ姿
でお出迎え



噴水と龍を組み合わせた豪華な飾り

〈文・写真〉

Profile

坂内 正（ばんない ただし）

ファイナンシャルプランナー、総合旅行業務取扱管理者。元政府系金融機関で中小企業金融を担当。退職後、旅行会社の経営に携わり、400回以上の渡航経験を持つ。ロングステイ詐欺疑惑など、主にシニアのリタイアメントライフをめぐる数々のレポートを著す。

著書に『年金&ロングステイ 海外生活 海外年金生活は可能か?』（世界書院）
ミンダナオ国際大学客員教授 『情報と調査』編集委員

7. 冬のチェンマイを訪ねて

(会員 渡嶋 八洲夫)

今年2月下旬、友人17名とチェンマイに2週間滞在した、マレーシアのキャメロン・ハイランド、ベトナムのダラットについて第3の冬季のロングステイ地選定が目的であった。今日までチェンマイにロングステイした人も多く、沢山の体験記が出されているが、自分の目で確かめたかった。朝方の温度は20℃程度で凌ぎやすいが、日中は30℃を越えて暑いのでゴルフプレーは早朝が良い。

結論から申し上げますと大変気に入りました。1月下旬～2月中旬の1ヶ月間のホテル予約をしてきた。

1. ホテル(カンタリ・ヒルズ ホテル)

(1) 清潔で広い部屋

滞在したのはカンタリ・ヒルズホテル(3.5星)、1番安いStudio Suiteタイプであったが、部屋も広く、バスタブとシャワーが独立している、キングサイズベッド、ソファァが完備、キッチンもあり料理も可能である。TVではNHKはじめ日本の放送が見られる。

レートは朝食付で約7,500円(含税・サービス料)であった。

2部屋タイプもあり、キッチンを備えたピングルームとベッドルームが独立している。自動洗濯機も備え付けられており長期のロングステイヤー向きである。



(スタジオタイプの室内)

来冬はSpecial Monthly Package Rateで予約したので部屋のレートは5,000円を切る、その上ホテル内のレストランとバーが10%引きになる。

(2) バラエティに富んだ朝食

日・泰・中・洋のビュッフェスタイル、沢山の料理から自由に選べる。日本食も食してみたが、味の良い味噌汁、美味しい和風焼き卵、漬物、納豆それに米は日本米と比べて差が無い。そのためか、かなりの日本人が日本食ファンのようだった。生野菜、果物、ジュース、は種類も多く新鮮だ。チャー飯、焼きそば、野菜炒め等種類が多く2週間では全部は食し得なかった、パンは種類も多くどれも美味しかった。ついつい食べ過ぎてヒルを抜くか軽いクッキー程度ですませることもあった。

(3) スポーツジム・プール・サウナ

日本では週2～3回のジム通いが習慣になっている小生にとってジムが自由に使えるのもうれしかった。ジムとプールの利用は無料であるが今回はプールまでは手が届かなかった。ジムには色々な重さのダンベル、歩行機器、バイク、各種の筋肉強化マシンがそろっており、滞在中4回各90分のトレーニングを行うことが出来た。男女別のサウナもありリラックスできる。



(ホテルのジム)

(4) くつろげる客専用ラウンジ

かなり広いスペースにソファァが配置されており、ゆっくりとした時間が過ごせる。セルフサービスで紅茶・コーヒーが飲み、クッキー、果物、小さなパウンドケーキが置いてある。新聞は英字の他日経・読売等が半日遅れで読める。朝食食べすぎの時はここで昼食を済ませたこともあった。

(5) 重宝したホテルのバン

予約をすれば10人乗りのバンが利用できる。タクシーが少なく比較的高いので、空港までバン1台B250(約750円)は助かる。

(6) 宿泊費

1泊一部屋 7,500 円であったが、今回は1ヶ月の滞在のため Special Monthly Package Rate を選択した、1ヶ月15万円なので1泊あたり 5,000 円と割安となる。このホテルは予約がとりにくいので来冬1ヶ月間の予約を済ませてきた。

2. コントラクト・ブリッジ国際試合

世界的なトランプゲームであるコントラクト・ブリッジのセンターがチェンマイにもあり週4日午後ゲーム会が開催されていると聞いていた。久保直也氏の紹介で6日間参加した。このゲームは2人がペアになりプレーする、今回は永島佳世子さんとペアを組んだ。相手ペアと4人が自分のパートナーと相対する様着席プレーをする。着席したテーブルでのプレーが終ると順次指定されたテーブルを回る。このブリッジクラブは在チェンマイの英国人を中心に米国人、オーストラリア人、スイス人達が結成、ブリッジの他、バーベキュー、小旅行を楽しんでいる、久保ご夫妻も会員登録をしている。試合の結果はHPで見られる。

会場は古い英国式のパブで“The Club”と入り口には表示がある。我々が参加した時は30人～40人(8～10テーブル)と盛会であった。運営も日本よりは遥かに進んでおり、その場で今プレーした成績とベストプレーがわかるようになっており反省が直ぐできる。成績は大きなスクリーンに映し出されプレーの進行とともに順位が入れ替わる様子がわかる。成績の良い時は「TOSHIMA・NAGASHIMA ペアールの今日の成績はいいな」という会話が聞こえてくる、名前も覚えてくれた。彼らはかなり積極的なプレーをするので最初はわが方は萎縮しボトム、ブービーと成績は芳しくなかったが、順次慣れ最後の2日間は2位と1位が取れた。知り合いも増え来冬の再会を約してきた。小生は日本コントラクト・ブリッジ連盟の会員として週に3～4回、四ッ谷ブリッジセンターでブリッジを楽しんでおり、はからずもチェンマイで沢山のペアと国際交流することが出来喜んでいる。

3. レストラン

① 日本食

日本人滞在者が多いせいか日本食レストランも多い。「山水」、「みゆき」等高級店もあるが、大衆食堂での120円の天麩羅うどん、焼き魚定食、かつ丼どれも安く美味しかった。

② タイ料理

「ルアンカムイン」は伝統あるレストランで建物は歴史を感じる老舗。香草ぬきの且つ辛い料理と頼んだのでシェフは面食らったのではと思っていたが、出された料理の味はどれも絶品だった。ビール・ワインを入れて2,000円程度で大いに満足した。



③ イタリアン

(フードコートでバーベキュー)

「デュクス」は本格的なイタリアンで部屋も清潔感がある。イカ墨のスパゲッティ始めオーダーしたアラカルトはどれも美味しかった。飲み物も入れて2,000円程度で次回も行きたくなった店の1つだ。

④ ホテル内レストランでのステーキ

久保氏のすすめでステーキを食した。地元の肉がいいとのこと、なるほど柔らかく美味しく、ボリュームもあり堪能した。出されたパンも美味しくお変わりを頼んだ。

4. 沢山あるゴルフ場

沢山のゴルフ場があるが一流コースといわれているところは予約がとりにくいで業者に頼んで予約を取ってもらった。ほとんどのゴルフ場は料金前払いでキャンセルは利きにくい。今回はアルパインカン・トリー、ランナー・カントリー、グリーンバレー・カントリー、メイジョウ・カントリー等でプレーした。プレー費はカート代・キャディー代を含めると1万円になる。グリーンは 素晴らしいがキャディーの質は概して良いとはいえない。ランナーは (ホテルの玄関 ゴルフ場へ) 料金5,000円未満と安くキャンセル料も無く、予約を取りやすい。次回はランナー中心に考えたい。



(サミットグリーンバレーゴルフ場)

5. その他

① 庶民の足ソントウ

小型トラックの荷台を改造、2列のベンチシートに屋根を付けた乗り物。行き先を告げ先客と同じ方向なら、定員10名までなら乗せてくれる。どこでも手を挙げれば止まってくれるし降りたいときはベルで知らせる。60円で便利な乗り合い小型バス。タクシーは少ない上に料金も高いので専らソントウを利用した。



(庶民の足 テンソウ)

② マッサージで悲鳴

タイ式マッサージの店は沢山ある。備え付けの衣服に着替えカーテンで仕切られた布団に横たわる。揉んでくれた後仕上げは腰を折り曲げたり、股を大きく開いたり、足を折り曲げたりと可なり荒っぽいマッサージ。「痛い」という日本語は解るらしくそれ以上痛めつけられることは無かった。1時間コースで600円、2時間コースだと900円程度、終ると暖かいお茶を出してくれる。「ソフト」と頼むと柔らかくほぐしてくれついウトウトしてしまう。

③ 買い物も又楽しい

朝市、土曜市、日曜ナイトバザールそれにデパート、大規模なモールがあり品物が溢れている。ご婦人方はショッピングを楽しんでいたが、衣類も安いので次回は洋服・下着等は代えを持参せずチェンマイで買おうかと冗談を言いつつも次々と買い物が増えたようだ。日曜ナイトバザールだけは話の種にと小生も覗いてみたが旧市内1kmにわたり店がびっしりと並び、歩くのもままならない混雑ぶりで迷子にならないよう気をつけた。大きなデパートには専用のバスがホテルにも寄ってくれるが頻度は少ない。

6. むすび

今回の参加者17名のホテル、ゴルフ場、レストランの予約、こまかな車の手配等ロングステイ滞在中の久保直也御夫妻の献身的な大変お世話があったお陰で充実した、効率的な、楽しいロングステイ体験が出来た。また来冬の1ヶ月のロングステイを決めることが出来た。参加者全員心から感謝申し上げている。

8. りらいぶサロンのご案内

(りらいぶ塾 塾長 鈴木 信之)



《りらいぶサロン》のご案内

2013年5~7月期

現役教師の方、これから教師を目指す方へ…

日本語教師でトクする話

目からウロコの日本語教師活用術

——プレゼンター/ファシリテーター にほんご教育コンサルタント・鈴木信之

年齢、性別、出身校、経歴などを超えて、「日本語教師」という共通テーマのもとに情報交流できる場を作りました。現役日本語教師の方も、養成講座などで勉強中の方も、海外で教えたいという方も、ちょっと興味があるという方も、ぜひお気軽に、何度でもご参加ください。

フリートークではプレゼンターへの質問のほか、参加者同士でお互いの経験や進路のこと、教授法、人間関係、その他話し合いたいことなど気軽に情報交換しましょう。

☆☆☆ 2013年5月~7月期の開催 ☆☆☆

2013年 **5月20日(月)・6月17日(月)・7月22日(月)** いずれも18~20時

*サロンは17時より開放中。プレゼンターも来所しています。

●場所 R&I りらいぶサロン

(東京都中央区日本橋蛸殻町 2-13-5 美濃友ビル 3F (自費出版図書館内) TEL 03-3668-8005)

*東京メトロ半蔵門線「水天宮前」駅(5番口)徒歩1分、日比谷線「人形町」駅(A1番口)徒歩5分、都営浅草線「人形町」駅(A3番口)徒歩7分

●参加費 500円 (サロン運営費としてご協力ください)

☆☆ 《りらいぶサロン》とは ☆☆☆
自分自身の「生きがい」や「やりがい」を考え始めた方々、あるいは退職・離職などで新たな自分の人生の充実を目指す方々が共に集まり、共に考え、共に刺激しあい、それぞれが新たな行動を開始する——。そんなクリエイティブなきっかけづくりの場を提供します。主に退職前後の方を対象に情報提供を行うNPO法人リタイアメント情報センター(R&I)が運営しています。

●お問い合わせ・参加申し込みは…

NPO法人リタイアメント情報センター(R&I)《りらいぶサロン》(担当:鈴木、佐野)

TEL 03-3668-8005 (月・水・金 12~17時とサロン当日のみ)

FAX 03-5643-7346 ⇒氏名、年齢、住所、電話番号をお知らせください

E-mail appli@retire-info.org ⇒氏名、年齢、住所、電話番号をお知らせください

■R&I事務局本部 ■〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14-4F <http://retire-info.org>

◎《りらいぶサロン》利用者規約

- ・ご利用の際はサロン運営費として毎回一人500円をご負担ください。
- ・他の利用者の迷惑にならないよう、マナーを守ってご利用ください。
- ・サロン利用時間内に限り、酒類を除き、ペットボトル・缶飲料の持ち込みは可能です。ただし、空きボトルなどは各自お持ち帰りください。食事はご遠慮ください。
- ・許可なくサロン内でのビジネス勧誘、商品販売などの営業活動はご遠慮ください。
- ・サロンは図書館内です。飲食しながらの図書館蔵書の閲覧は禁止します。



りらいぶサロン 東京都中央区日本橋蛸殻町2丁目13-5 美濃友ビル3F



マップコード: **MAPCODE** 649 675*88 緯度経度: 北緯35度41分4.17秒 東経139度47分3.37秒

最寄り駅 水天宮前(0分) 人形町(1分) 人形町(4分) 浜町(7分) 茅場町(8分)



スマートフォンやケータイからチェック

バーコードを読み取り、モバイル版Yahoo!ロコ地図へアクセスすると、地図と便利な周辺情報を見られます。

※施設の詳細情報は表示されません。



この地図をケータイに送る

(Yahoo! JAPAN IDでのログインが必要です)

※スマートフォンでご利用いただく際は、バーコードを読み取るアプリが必要です。



Copyright (C) 2012 Yahoo Japan Corporation, All Rights Reserved.

バリ コミュニケーション

第95号

<http://www3.ocn.ne.jp/~bali/>2013年 4月発行
PT. Care Resort Bali

世界遺産に登録された棚田の風景

**雄大で美しいバリの棚田。
世界遺産を存分に堪能できる
ツアーも企画しています。**

バリ島で初めて世界遺産に登録された5つの棚田地域の1つは、ケアリゾートバリから車で約1時間15分。ケアリゾートバリにお越しの際には、ぜひ立ち寄って、見ていただければと思います。

棚田を通じ、長い時の経過が感じられます。

その世界遺産は、ケアリゾートバリ近くのタバナン県ジャティルウィ地区のバトゥカル山林保護区内。元々火山の島であるバリの地に、農民の智慧と技術がもたらした棚田。改めて見直すと、自然と人の力の調和を感じます。

どの家の田んぼにも平等に流水が行き渡るように工夫されており、同じ水路を利用している人達で管理しているシステムは、長い歴史を経て形成されたものなのでしょう。バリ島の奥深い一面を垣間見ることができます。



美しい棚田が青々と一面に広がっています



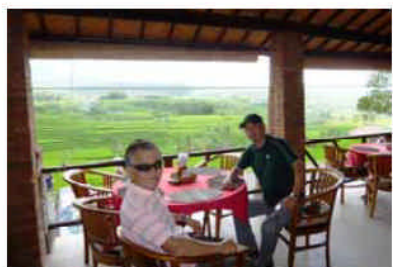
テラスカフェで休憩も取れます

テラスカフェで棚田を眺めながらお食事も。

側にはカフェもあり、棚田が目の前に広がる風景を見ながら食事やお茶を楽しむことができます。お昼前にケアリゾートバリを出発し、昼食をこちらのテラスカフェで取るのもいいでしょう。時間を忘れ自然の中でゆっくり過ごしてみたいはいかがでしょうか。

訪問者の声

バリで見た棚田では一番すごい！いまだかつてこんな棚田は見たことがありません。僕は20回ほどバリに行っていますが、スケールの大きさにうなりました。一見の価値あります。世界遺産の認定碑もあり重みを感じました。(OMさん)



レストランからの眺めは最高！

世界遺産の行き帰りには・・・

◆バリ植物園 ◆ローカルなブドウ市場 ◆ブラタン寺院やその他近場の寺院などを組み込み、半日ツアーもお楽しみいただけます。お気軽にご相談ください。



世界遺産近くの寺院。趣があります

◆当記事に関するご意見、お問い合わせは、編集担当の瀬までお願いします。E-mail: ksewa@pastel.ocn.ne.jp
PT. Care Resort Bali(東京連絡所) 〒160-0023 新宿区西新宿 8-14-17-303 TEL&FAX: 03-5330-5345



10. ニュージーランド・クライストチャーチレポート (3月号) (会員 島村 晴雄)

NZ・クライストチャーチ レポート

<http://www.ccc.govt.nz/>

2013年3月発行・特別号その10

10回目のレポートですが、今までクライストチャーチ(以降 CHC)やその周辺のレポートをしてきましたが、最近の肝心な日本からのアクセスについて、一度もご紹介していませんでしたので、初めて紹介させていただきます。

日本(東京・成田)から CHC 迄の通常フライトで考えると、ニュージーランド航空(以降 NZ)または LCC のジェットスター航空のどちらかの選択になります。行きの日程に2日以上掛けるのであれば、選択肢は広がりますが、時間的なことを考えれば基本的には、このどちらかの航空会社利用が便利です。

NZ 航空は毎日運航し、現在月曜、火曜 & 土曜は直接成田から CHC へ飛んでおり、他の曜日はオークランド(以降 AKL)経由で CHC に入ります。



クライストチャーチ空港
ターミナル付近

朝 10 時頃に日本から直接
CHC 空港に到着した NZ 航空フライト

行きが CHC ダイレクト・フライトの場合は、夕方の 18 時半頃に成田を出発し、翌日の 10 時頃に CHC に到着します。AKL 経由の場合は、やはり翌日の朝に AKL 到着後、NZ 航空の国内線に乗り換えて 13 時頃に CHC に到着します。

この到着時間は、サマータイム時のもので日本との時差は+4 時間です。通常時差は+3 時間です。

また、帰りの便は全て CHC から ALK 経由で成田に戻ることにとなります。朝 6 時頃 CHC を出発し、ALK を経由し、17 時頃に成田に到着します。

もう一つのジェットスター航空は、LCC なので NZ 航空より運賃はお安くになりますが、成田からは AKL までしか飛んでいません。成田から一旦オーストラリアのゴールドコーストを経由し、AKL に入ります。よって NZ 航空より時間が多少掛ります。

成田を 20 時半頃に出発し、経由がありますので、翌日 14 時半頃 AKL に到着します。AKL から CHC までは NZ 国内線の利用となります。

LCC に拘りますと、ジェットスター航空は NZ 国内も運航していますので利用となりますが、良い乗り継ぎ便が無く、現在は AKL を 21 時過ぎ出発で、22 時半過ぎに CHC に到着する便となりますので、時間のある方は AKL 近辺も少し楽しんで、数日後に CHC に入るのも良いかもしれません。

NZ は本当に素晴らしいのですが、常夏のインドネシアにも是非お越しください。マリン・スポーツが満喫できる**ギリ・メノ**に一度はお越しください & **Casablanca**。

<http://www.h2.dion.ne.jp/~gilimeno/>
shimaint@r4.dion.ne.jp へ

Casablanca のお問い合わせは、



ジェットスター航空フライト内から見た
ゴールドコースト空港



早朝 CHC 空港を飛び立った
NZ 航空機内から見た
CHC 北のカイアポイ付近



朝 AKL 空港から日本に向けて
出発待機する NZ 航空フライト



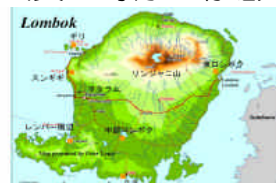
11. バリ・ロンボク レポート (4月号)

(会員 島村 晴雄)

バリ&ロンボク・レポート

<http://www.h2.dion.ne.jp/~gilimeno/>

第38号 2013年4月発行



インドネシアではそろそろ雨季が終わり、乾季が始まる4月となり、少し動きやすいシーズンとなりました。ロンボク島では、一昨年2011年10月ロンボク国際空港の開港時にユドヨノ大統領が来島し、ロンボク島周辺の海岸リゾート開発推進を、今後のインドネシア観光事業展開の柱とすることを宣言しました。しかし、インドネシア政府建設費予算が厳しい状況もあり、なかなかインフラ整備等が進まなかったのですが、開港から約1年半が過ぎて、徐々になのですが空港周辺の道路やリゾート地域への道路整備が漸く終わって来ました。これに伴って道路周辺の民間投資も増えて来ており、需要を見込んで新しいショッピング・センターの開設や周辺ホテルやマーケットのリニューアル等も沢山行われて来ています。



リゾート地・スングギヘ向かう
再舗装された道路
・ニンティング付近



リゾート地・スングギ付近
整備中道路右側は海側で
多くのリゾート・ホテルが並んでいる

インドネシア政府が、この空港を開設したのも、ロンボクを観光地として第二のバリにするための戦略であったのですが、同じインドネシアでもバリはヒンドゥー教が主体で、自由度も高く、真面目で勤勉なバリ人が多く、きれいな海岸を含めて、ヒンドゥー教の寺院や遺跡、更には伝統

芸術の展開等、見所が沢山あるのに対して、ロンボクはバリよりも美しい海岸や多くの小島があり、海のリゾートとしては十分にバリの上をいっているのですが、ロンボク人(主にササク)はイスラム教が主体で、宗教的な戒律も厳しく、バリに比べて自由度が限られることが多くあり、観光地としてなかなか発展出来ない現実があるのかと思います。

顕著な例はイスラム教の断食(ラマダン)があります。もしもこの時期にロンボクを訪問された場合、日中は殆どの店は閉まっていますし、街も閑散とし、買い物するのも大変です。また先々号にも書きましたが、お酒の取り扱いも厳しくなり、酒を安く手に入れるにも一苦労です。

でも、インドネシア政府観光局の挺入れで、ロンボク南海岸のリゾート開発が着々と進行していますので、新たなロンボク・リゾートもご期待願います。

the Mandalika Resort (<http://www.mandalikaresortlombok.com/what-is-mandalika-resort.html>)



リゾート開発が進むロンボク南
クタ海岸風景



the Mandalika Resort 計画図
空港から近いロンボク南岸リゾート開発プロジェクト

マリン・スポーツが満喫できるギリ・メノに一度はお越しください。

<http://www.h2.dion.ne.jp/~gilimeno/> Casablanca

お問い合わせは、 shimaint@r4.dion.ne.jp へ



1 2. 自費出版図書館のご案内

自費出版は、リタイアメント情報センターの活動プロジェクトの1つとして自費出版される方々を始め会員の消費者保護を目的として、活動している主要なプロジェクトのひとつです。また、自費出版図書館は自費出版された書籍を豊富に蔵書する図書館であり、リタイアメント情報センターの法人会員でもあります。

自費出版図書館

- 開館日・時間 月・水・金曜日 12:00～17:00 ※ただし祝祭日、年末年始、お盆は休館。その他、催し物などで開館時間の変更または休館場合があります。
- 入館無料／貸し出しは行っていません。コピーサービスあり（1枚50円）
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-13-5 美濃友ビル3F
TEL 03-5643-7341 FAX 03-5643-7346
E-メール library@ke.main.jp ホームページ <http://library.main.jp>

1 3. 事務局からのお知らせ

- いよいよ春爛漫の季節となり、爽やかな気候となって参りました。会員の皆様には日々お元気にお過ごしのことと拝察いたします。
ニュースレターもお陰さまで2年目を迎え更なる紙面の充実をはかって参る所存です。ひき続き皆様のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。
- 会員皆様からの幅広いエッセイ、絵画、書道、紀行文などのご投稿をお待ちしております。

発行 特定非営利活動法人 リタイアメント情報センター（R&I）
〒105-0012 東京都港区芝大門1-4-14 芝栄太楼ビル4F VIPシステム内
TEL 03-5733-2311 FAX 03-5733-3532
e-Mail: info@retire.org ホームページ: <http://retire-info.org/>
リタイアメントジャーナル: <http://retirement.jp/> 発行責任者 豊口 一美